

2015年度 九州大学 前期 地理

〔1〕 世界の貿易

出題範囲	世界の工業, 貿易, 都市
難易度	★★★☆☆
所要時間	45分
傾向と対策	九州大学で地理が出題されるのは2015年度が初めてである。世界の貿易について問われており、論述問題が中心であった。論述は300字と200字であり比較的長いが、指定語句が与えられているので指定語句をうまく活用し、基本的な知識を応用すれば解答可能である。また、各設問が関連しており1つ間違えると大量失点につながるため、判別問題は間違えないよう慎重に解きたい。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために暗記が必要な頻出語句を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい地名を青字で記載した

《字数について》

マス目付き解答欄について、英字・算用数字は「1マスにつき最大2文字」書くことを前提として計算した

例 800年の場合

80	0	年
8	00	年

1200年の場合

12	00	年
----	----	---

ASEANの場合

AS	EA	N
----	----	---

解答例

問1. A国 - 韓国, B国 - ケニア, C国 - ベネズエラ, D国 - ガーナ, E国 - メキシコ, F国 - サウジアラビア

問2. ①C国とF国, ②B国とD国, ③A国とE国

問3. C国とF国は世界有数の石油輸出国であり、OPECに加盟している。石油輸出により十分な収入が得られるため、国際競争力の低い農産物や工業品は輸入に依存しており、工業の発達は遅れている。B国とD国は工業化の遅延した発展途上国である。カカオ豆や茶などの農産物や金などの鉱物といった、特定の一次製品の生産や輸出に依存したモノカルチャー経済であり、国際価格の変動に影響を受けやすく不安定で、貧困や国内経済格差が問題化している。A国とE国は、先進国から資本や技術を積極的に導入することで輸出指向型工業に移行した新興国である。重化学工業化に成功し国家経済は発展したが、輸出依存度が高く外需に頼った経済である。(294字)

問 4. 発展途上国が原材料や食料などの一次産品を輸出し、先進国が工業製品を輸出する垂直貿易の継続により、双方の経済格差が拡大する南北問題が起こった。近年では、資源国やアジア諸国などの一部の発展途上国の経済発展が進んだことで、それらの国々と資源貧国や政治的不安定から経済発展の遅延した後発展途上国との間で新たに南南問題とよばれる経済格差が生じ、発展途上国どうしにおける対立の原因となった。(190 字)

問 1. 難易度：★★★★☆

解答

A 国 - 韓国, B 国 - ケニア, C 国 - ベネズエラ, D 国 - ガーナ, E 国 - メキシコ, F 国 - サウジアラビア

解説

世界各国の輸出品割合から国名を考える問題。一見難しそうだが、しっかりデータの特徴を読み取れば正答できる。問 1 の結果はそのあとの問題に大きく影響するので、輸出総額にも着目しながら丁寧に分析していこう。

まず輸出総額で分類し、そののち構成比で分類していく。輸出総額で分類すると、輸出総額の多い A 国, E 国, F 国と少ない B 国, C 国, D 国に分類できる。

・輸出総額の多いグループ…韓国, サウジアラビア, メキシコ

A 国 農産物・食料, 化石燃料, 鉱産物といった一次産品の輸出構成比が極めて低く、機械製品の輸出構成比が高い。これらより、国内資源に乏しく加工貿易を行っている韓国とわかる。輸出総額が 6 カ国の中で最も多いことから、最も経済発展の進んだ韓国と判断してもよい。

E 国 化石燃料の輸出が比較的多く、機械製品の輸出構成比も高い。これらより、メキシコ湾岸油田から原油が産出され、アメリカ合衆国向けの製品の生産などで輸出指向型工業に移行したメキシコとわかる。なお、メキシコは OPEC(石油輸出国機構)に加盟していない。

F 国 化石燃料の輸出構成比が極めて高いことから、サウジアラビアとわかる。サウジアラビアは、世界最大の原油輸出国(2014 年)であり、OPEC(石油輸出国機構)、OAPEC(アラブ石油輸出国機構)の両方に加盟している。

・輸出総額の少ないグループ…ケニア, ベネズエラ, ガーナ

B 国 輸出総額はメキシコの 10 分の 1 以下と極めて少ないことから、原油の輸出量が世界有数のベネズエラでないことがわかる。ここで輸出構成比をみると、B 国と同様に輸出総額の少ない D 国と比較して、鉱産物の輸出が少ない。ガーナは金の生産が盛んであることから鉱産物の割合は大きくなるはずであり、B 国はケニアとわかる。なお、ケニア内陸のホワイトハイランドでは高山気候を生かし、植民地時代から茶やコーヒー豆の生産が盛んとなっている。

C 国 B, D 国と比較して輸出総額が多く、化石燃料の輸出構成比が極めて高い。これらより、マラカイボ油田などで石油が産出され、世界最大の原油埋蔵国(2016 年)であるベネズエラとわかる。ベネズエラは、ほ

かにも鉄鉱石やボーキサイトなどの鉱産物が豊富である一方、ステップ気候(BS)やサバナ気候(Aw)が広がり土地生産性が低いため、農産物の多くは輸入に依存している。

D 国 輸出総額が 52 億ドルと極めて少なく、鉱産物の輸出構成比が高い。これらから、金の生産・輸出が多く、金やカカオ豆に依存したモノカルチャー経済の国であるガーナとわかる。なお、ガーナはカカオ豆に大きく依存した経済体制だったが、国家経済の安定化のため金の輸出を増やすなど、徐々に変化がみられている。また、B よりも D の方がはっきりした特徴をもっているため、D の判別をしたあとに B を解くほうが簡単である。

問 2. 難易度：★★★★☆

解答

①C 国と F 国, ②B 国と D 国, ③A 国と E 国

解説

問 1 での判定をもとに経済の特徴から各国をグループ分けする問題。問 1 が解けていれば判別は難しくない。

まず、大問の中の間 2 の位置づけを確認しよう。問 2 のグループ分けは問 3 の論述で利用され、グループごとの経済の特徴について述べるのが求められている。このことから、問 2 では各国の経済の特徴に着目する。また、問 3 の指定語句にある OPEC、モノカルチャー経済、輸出指向型工業のキーワードに着目しながら解いていこう。

OPEC に注目すると、6 カ国の中で OPEC に加盟している国は、サウジアラビアとベネズエラのみである。これをグループ①とする。OPEC の加盟国を知らなくても、OPEC が石油輸出国機構であることがわかれば、表 1 の輸出品構成比の化石燃料から判別できる。

モノカルチャー経済に注目すると、残った 4 カ国のうち、モノカルチャー経済であるのはケニアとガーナとわかる。これをグループ②とする。表 1 の輸出総額が極めて少ないことから経済発展が遅れている国と考えてもよい。

最後に残った 2 カ国についても確認しておこう。残ったキーワードは輸出指向型工業で、残った国はメキシコと韓国である。これは、韓国は 1960 年代から外資導入を行い輸出主体で経済発展したこと、メキシコはおもにアメリカ向けの安価な工業製品を生産、輸出していることと矛盾しない。

問 3. 難易度：★★★★☆

解答例

C 国と F 国は世界有数の石油輸出国であり、OPEC に加盟している。石油輸出により十分な収入が得られるため、国際競争力の低い農産物や工業品は輸入に依存しており、工業の発達は遅れている。B 国と D 国は工業化の遅延した発展途上国である。カカオ豆や茶などの農産物や金などの鉱物といった、特定の一次製品の生産や輸出に依存したモノカルチャー経済であり、国際価格の変動に影響を受けやすく不安定で、貧困や国内経済格差が問題化している。A 国と E 国は、先進国から資本や技術を積極的に導入することで輸出指向型工業に移行した

新興国である。重化学工業化に成功し国家経済は発展したが、輸出依存度が高く外需に頼った経済である。(294字)

解説

世界の国々の経済の特徴について述べる問題。字数制限は300字なので、できるだけ各グループ100字前後になるよう心がけよう。

・グループ①：ベネズエラ(C国)、サウジアラビア(F国)

グループ①のキーワードは問2の解説で述べたように「OPEC」である。サウジアラビアなどのペルシャ湾岸諸国やベネズエラなどの石油産出国では、国際石油資本(メジャー)による石油価格の引き下げに対抗するため、1960年にOPEC(石油輸出国機構)が結成された(詳しくはコラム参照)。石油産出国は豊かであるものの、経済は資源価格に左右されるため不安定といえるだろう。工業についてもふれておこう。この2国では、表1からもわかるように他工業の発達はあまりみられない。これは石油により十分な資金が得られるため、人口が少なく原材料の入手が困難で土地生産性の低い砂漠地域や熱帯地域(=国際競争力が弱い)で農業や工業を行うより、石油輸出による収入で他国から農産物や工業製品を輸入するほうがより効率的なためである。

・グループ②：ケニア(B国)、ガーナ(D国)

グループ②のキーワードは問2の解説で述べたように「モノカルチャー経済」である。ケニアやガーナといったアフリカ大陸のサハラ砂漠以南の国々には、経済発展の遅延した貧国が多く、特定の一次産品の生産と輸出に依存したモノカルチャー経済の国がほとんどである。モノカルチャー経済の国では、例えばカカオ豆やコーヒー豆といった主力となる一次産品の値段が下がると、経済が国家レベルでダメージを受けてしまうことが大きな問題となっている。

ここで制限文字数が多いことから、具体例についてもふれておこう。ケニアは内陸部を中心にエチオピア高原が広がり、冷涼な気候と高い標高を生かし、イギリス植民地時代から茶やコーヒー豆といった農産物の生産が盛んであった。また、気候がヨーロッパに近いことからホワイトハイランドとよばれ、白人の入植が進んだ場所でもある。ガーナは、ギニア湾沿岸の国であり、イギリス植民地時代からカカオ豆の生産が盛んであったのに加え、金やダイヤモンドといった鉱産物や原油の産出も盛んである。

・グループ③：韓国(A国)、メキシコ(E国)

グループ③のキーワードは問2の解説で述べたように「輸出指向型工業」である。韓国やメキシコでは、欧米や日本などの先進国から資本や技術を積極的に導入することで輸出指向型工業に移行している。しかし、メキシコなどはアメリカ経済への依存度が高く、必ずしも安定した経済とはいえないことに注意しよう。

なお、世界の貿易の拡大、経済の成長、発展途上国の支援を目的に作られ、先進国の目安ともいわれるOECD(経済協力開発機構)にも、1994年にメキシコが、1996年に韓国が加盟を果たした。

◆参考

OPEC と OAPEC の歴史と加盟国

石油に関連する問題は、九州大学に限らずセンター試験などでも聞かれるので復習しておこう。

・加盟国について

	OPEC(石油輸出国機構)	OAPEC(アラブ石油輸出国機構)
原加盟国	イラン, イラク, クウェート, サウジアラビア, ベネズエラ	クウェート, サウジアラビア, リビア
その他加盟国 (2017 年現在)	カタール, リビア, UAE(アラブ首長国連邦), アルジェリア, ナイジェリア, エクアドル, ガボン, アンゴラ, 赤道ギニア	UAE(アラブ首長国連邦), バーレーン, カタール, アルジェリア, イラク, エジプト, シリア
本部, 事務局	ウィーン(事務局)	クウェート(本部)
時期	1960 年	1968 年
背景	国際石油資本(メジャー)が独断で中東石油価格を値下げ, そののち事前協議を求めたにもかかわらず再度値下げを行う。産油国は国際石油資本に共同で対抗しようと OPEC を結成。	第 3 次中東戦争 に敗戦後, 欧米諸国と結びついたイスラエルに対抗するための石油戦略を共同で行うため, OAPEC が結成された。このあと起こった 第 4 次中東戦争 では, OAPEC による石油禁輸や石油価格の引き上げにより, 石油ショックが起こった。

問 4. 難易度 : ★★★★★

解答例

発展途上国が原材料や食料などの一次産品を輸出し, 先進国が工業製品を輸出する垂直貿易の継続により, 双方の経済格差が拡大する南北問題が起こった。近年では, 資源国やアジア諸国などの一部の発展途上国の経済発展が進んだことで, それらの国々と資源貧国や政治的不安定から経済発展の遅延した後発発展途上国との間で新たに南南問題とよばれる経済格差が生じ, 発展途上国どうしにおける対立の原因となった。(190 字)

解説

世界の経済格差について問う問題。キーワードをうまく利用すれば部分点はもらえるだろう。

まず、年代をグループ分けしよう。この時、問題文に第二次世界大戦後とあるので戦前については触れなくてよい。また、問題文に記載されているキーワードから、南北問題と南南問題について書くことが求められている。戦後を、南北問題の起こった時代と南南問題が加わった時代の2つの時代に分けて考えていこう。

・南北問題が起こった時代

南北問題とは、**先進国と発展途上国間の経済格差とそれに伴う諸問題**のことである。先進国のほとんどが地球の北側に位置し、南側のほとんどの国は発展途上国であることから南北問題とよばれている。この問題は、発展途上国が原材料や食料などの一次産品を輸出し先進国が工業製品を輸出する垂直貿易が継続することで、発展途上国の工業化や経済発展が進展せずモノカルチャー経済が固定化したことにより発生した。現在でも国連を中心に格差是正のための援助が行われているが、格差は依然として残っている。

・南南問題が加わった時代

南南問題とは、**資源保有国や経済発展の進んだ発展途上国と、そうでない発展途上国(後発発展途上国という)との間で経済格差が広がることに伴う諸問題**のことをいう。発展途上国の多くは地球の南側に位置することから南南問題とよばれる。この問題は、1970年代以降工業化の進んだ新興国や、**資源ナショナリズム**の高まりにより資源価格をつりあげ輸出額を増大させた資源国が経済発展したことで、資源貧国や地理的な位置、政治的不安定などから工業化の遅延した後発発展途上国との経済格差が拡大したことで生じた。

なお、南北問題が解消されたわけではないので、「南北問題から南南問題に変化した」のように書かないように注意しよう。

(柿沼麻衣花, 來住直哉)

2015年度 九州大学 前期 地理

〔2〕 近年の資源・エネルギー事情

出題範囲	気候, 環境問題, オーストラリアの農業, 貿易, オセアニア地誌
難易度	★★★☆☆
所要時間	40分
傾向と対策	九州大学では2015年より文学部で地歴の試験が課された。問題内容としては標準的ではあるが、1問あたりの字数が多く、論述数も全体で5つと少ないため、時間に注意しながら解かなければならない。論述は、書き始める前に方針が十分に思い浮かんでいるかが重要である。演習では、時間をかけてでも論述の構想を十分に練ることを心がけよう。論述のコツをつかむことができれば、解答時間も短縮できるようになるだろう。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい地名を青字で記載した

《字数について》

マス目付き解答欄について、英字・算用数字は「1マスにつき最大2文字」書くことを前提として計算した

例 800年の場合

80	0	年
8	00	年

1200年の場合

12	00	年
----	----	---

ASEANの場合

AS	EA	N
----	----	---

解答例

問1. A - ① B - ③ C - ② D - ④

問2. 降水量の地域差が大きいオーストラリアでは、適地適作の企業的農業が行われている。湿潤な沿岸部では、北東部でサトウキビ栽培、南東部で小麦の栽培や酪農、都市近郊で園芸農業が行われている。乾燥する内陸部では、南部で牧羊、北部で牧牛が行われている。特に大鑽井盆地では地下水を利用した牧羊が行われている。(146字)

問3. 以前は農畜産物の輸出が多かったが、アジアの工業化を受け国内の資源開発が進み、石炭・鉄鉱石など鉱産資源の輸出が多くなった。輸出先は、以前は白豪主義のもとで旧宗主国のイギリスなどヨーロッパの国が多かったが、イギリスのEC加盟以降、アジア諸国との関係を強化し、現在は中国・日本などのアジア諸国への輸出が多い。(150字)

問4. サンゴ礁から形成された島であり、その自然環境を活かした観光業が発達し、外貨獲得源となっていたが、その形成理由上、島は低平であり、地球温暖化による海面上昇の被害を受けやすく、島の存続の危機となっている。(100字)

問1. 難易度：★★★★☆

解答

A - ① B - ③ C - ② D - ④

解説

ハイサーグラフから該当する地点を答える問題。基本問題であり、判別はそれほど難しくないだろう。

- A 一年を通して気温が高い。よって、4地点の中で最も低緯度に位置している①が該当する。なお、ハイサーグラフより最寒月の平均気温が18°C以上であることから、熱帯とわかる。
- B 7月の降水量が多く、1月の降水量が少ない。4地点はすべて南半球上にあるため、1月は夏、7月は冬である。よって、Bは夏季に少雨、冬季に湿潤となる地中海性気候(Cs)の都市のグラフである。これに該当するのは③である。地中海沿岸以外で地中海性気候となる地域は問われやすいので、しっかり覚えておこう。
- C 一年を通して降水量が少ない。これに該当するのは②である。オーストラリア中央部は中緯度高圧帯の影響を年中受け、年中少雨である。
- D 4地点の中で平均気温が最も低い。よって、4地点の中で最も高緯度に位置している④が該当する。ニュージーランドは西岸海洋性気候(Cfb)に属しており、季節による降水量の変化は小さい。また、ニュージーランド南島は中央部を走るサザンアルプス山脈により降水量の多い西部と降水量の少ない東部に分けられており、東部にある④(D)は降水量が少ない。

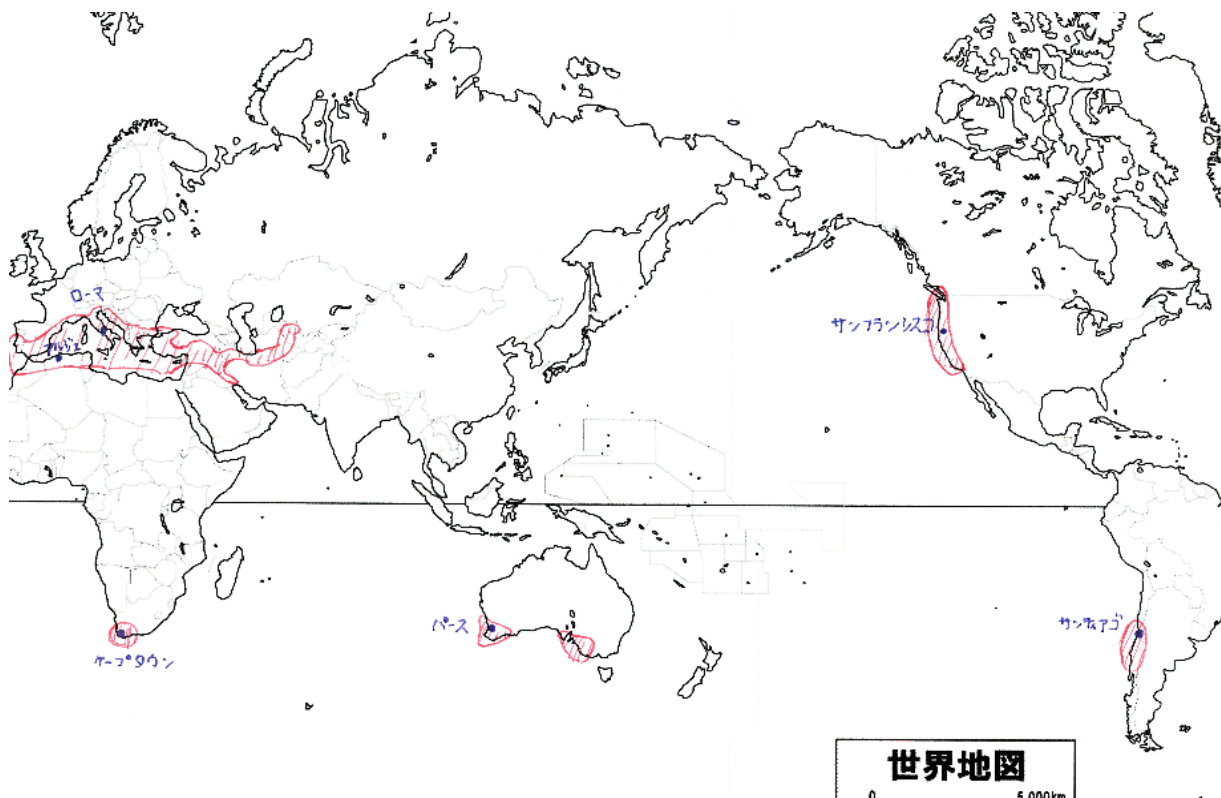
◆参考

地中海性気候の地域

地中海性気候(Cs)とは、温帯の中で夏季の降水量が冬季の降水量の1/3に満たない地域である。夏季に中緯度高圧帯の影響下に入る、おもに緯度が30~40度の地域で見られる。

代表的な地域(都市)

- 地中海沿岸地域
- アメリカ西海岸(サンフランシスコ)
- チリ中部(サンティアゴ)
- オーストラリア南西沿岸地域(パース)
- アフリカ南端(ケープタウン)



問 2. 難易度 : ★★★★★

解答例

降水量の地域差が大きいオーストラリアでは、適地適作の企業的農業が行われている。湿潤な沿岸部では、北東部でサトウキビ栽培、南東部で小麦の栽培や酪農、都市近郊で園芸農業が行われている。乾燥する内陸部では、南部で牧羊、北部で牧牛が行われている。特に大嶺井盆地では地下水を利用した牧羊が行われている。(146 字)

解説

オーストラリアの農業の特徴を述べる問題。オーストラリアの適地適作を中心にして、語句を参考にしながら書いていけばよい。

まず、オーストラリアで適地適作が行われる原因となっているのが、オーストラリア大陸内の降水量の地域差である。以後、降水量の多い順に解説をしていく。大陸北部・東部の海岸部は年降水量が 1,000mm を超える地域である。特に気温が高い大陸北部はサバナ気候(Aw)であり、北東部の海岸部では亜熱帯性作物であるさとうきびのプランテーション栽培が行われている。大陸南東部の降水量は 500mm~750mm であり、小麦の栽培や、酪農、都市周辺の園芸農業が行われている。オーストラリア大陸中央部は年降水量 500mm 未満の乾燥した地域であり、放牧が行われている。比較的降水量の多い北部では牧牛、少ない南部では牧羊が行われている。内陸部の大嶺井盆地では地下水が豊富なため、掘り抜き井戸でくみ上げた地下水を用いて放牧が行われている。この地下水は塩分を含むため、塩分濃度の高い水にも耐性をもつ羊がおもに放牧されている。なお、内陸部での放牧は気候・輸送の観点からみて非効率なものであり、内陸部の牛・羊の飼育数は、沿岸部と比べ、とても少ないことは留意しておこう。

問 3. 難易度 : ★★★★★

解答例

以前は農畜産物の輸出が多かったが、アジアの工業化を受け国内の資源開発が進み、石炭・鉄鉱石など鉱産資源の輸出が多くなった。輸出先は、以前は白豪主義のもとで旧宗主国のイギリスなどヨーロッパの国が多かったが、イギリスの EC 加盟以降、アジア諸国との関係を強化し、現在は中国・日本などのアジア諸国への輸出が多い。(150 字)

解説

オーストラリアの貿易の特徴を答える問題。

グラフをみてわかるように、1960 年にはイギリスなどのヨーロッパ諸国への羊毛や小麦といった農畜産物の輸出が多かった。これはオーストラリアが、イギリスの植民地時代から、イギリスなどのヨーロッパの国向けの羊毛・小麦の生産地として発展してきたことに由来する。オーストラリアはイギリスからの独立をしたあとも、英連邦に属し、イギリスとの関係を保ってきた。しかし 1973 年にはイギリスが EC に加盟し、英連邦内で特惠関税が段階的に解消された。このことはイギリスが旧植民地ではなく、ヨーロッパとの関係を重視していくことを意味しており、オーストラリアも必然的に外交関係の見直しが求められた。これによりオーストラリアは、イギリスを含め地理的に離れたヨーロッパではなく、地理的に近くて、新たに工業化が進むアジアとの関係を重視

していくようになった。これには第二次世界大戦後、ヨーロッパの経済的地位が揺るぎ、日本をはじめとするアジア諸国が経済的に発展したことも影響している。その後オーストラリアでは国内の資源開発が進展し、現在では鉄鉱石・石炭の大輸出国となっている。なお、2014年の石炭輸出は3億7,504万トン(世界全体の27.9%)で世界2位、2015年の鉄鉱石の輸出は8億1,053万トン(世界全体の53.6%)で世界1位である。

解答例では、アジアの工業化を輸出品の変化の原因に、イギリスのEC加盟を輸出先変化の原因としたが、工業化は輸出品・輸出先、両方の変化に大きく影響しているため、まとめて書いてもよい。ただ、イギリスのEC加盟はオーストラリアの経済政策の転機として重要なため、ふれておいたほうがよい。

問4. 難易度：★★★★☆

解答例

サンゴ礁から形成された島であり、その自然環境を活かした観光業が発達し、外貨獲得源となっていたが、その形成理由上、島は低平であり、地球温暖化による海面上昇の被害を受けやすく、島の存続の危機となっている。(100字)

解説

オセアニアの島に関する問題。サンゴ礁が産業の特徴、現在直面する問題の両方にかかわっていることがわかれば、解答をうまくまとめることができる。

解答に書く必要はないが、オセアニアの島々の多くが該当するサンゴ礁島の形成を説明しよう。まず、もともとなる島の周辺に、^{きょしょう}裾礁が形成される。のちにもとの島が沈降するにしたがって、サンゴ礁は^{ほしょう}堡礁となり、最終的にサンゴ礁のみが残る環礁となる。

島の周囲のサンゴ礁は、南国の気候と合わせて、重要な観光資源となっている。また、海岸にはサンゴ礁が削られてできた砂が堆積し白いビーチが広がっている。こうした自然環境を活かすことができる観光業は、面積が小さく農業・工業が発達しにくいサンゴ礁島にとって、重要な外貨獲得源となっている。

一方で、サンゴ礁島ならではの弊害もある。サンゴ礁島はその形成要因ゆえ、低平な島であるため、津波や海面上昇の影響を強く受ける。近年は地球温暖化による海面上昇が著しく、ツバルなどのサンゴ礁島は水没による島の消滅が危ぶまれている。

なお地球温暖化による海水温上昇はサンゴの白化(サンゴの死)をもたらしており、これにより観光資源が失われているという問題がある。海面上昇による島の消滅と比べ、スケールは小さい問題だが覚えておいてほしい。

(石川卓郁, 來住直哉)